

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成28年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
機関名	熊本大学	全体責任者（学長）	原田 信志
類型	複合領域型（生命健康）	プログラム責任者	西村 泰治
整理番号	I02	プログラムコーディネーター	小椋 光
プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム H I G O		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

HIGO（Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented）プログラムでは、大学・行政・産業界の密接なタイアップによって、医学・薬学・生命科学等を基盤とする健康生命科学の広く深い専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観（主にアジア）を連結することで、国際・地域社会の諸課題とニーズを俯瞰的に捉えて、その解決に挑戦できるグローバル（グローバル+ローカル）な「健康生命科学パイオニア」としてのリーダーを養成する。

医学・薬学・生命科学等から重要点を抽出・統合して、文理融合型の育成コースを新規開設し、中核となる生命科学分野における高度な専門性を持ちつつ、熊本大学と熊本県・熊本市が一体となったグローバル社会文化科学を通して、日本とアジア、歴史と文化、行政経済と社会倫理などを理解することで、健康生命科学をグローバル社会の中に位置づける。具体的には、医療・保健、創薬・薬事、教育・研究など、健康生命科学の諸分野で、ひとの健康の維持・増進に寄与し、コミュニケーション能力を磨いて、世界と地域の諸課題を自ら発見・行動し、次代を担う産官学の新しいコラボレーションを創出できるグローバル社会リーダーの輩出を実現する。

熊本大学は、全学的に大学院教育と先端研究を推進する「大学院先導機構」を設置し、新たなパラダイムを描きながら各研究領域における大学改革を図っている。本プログラムは、大学院先導機構の統括的な指揮の下に実施され、学長主導の大学改革の核となる。

## 2. プログラムの進捗状況

### 1. 学生支援の実施

#### (1) 奨励金の支給

平成28年度はプログラム生12名の受入れを行い、プログラム生52名に対し奨励金（20万円/月）を支給し支援を行った。

#### (2) 独創的教育研究活動経費の支援

プログラム生へ独創的教育研究活動における提案（申請者30名）の募集を行い、一次審査（書類審査）及び二次審査（プレゼン審査）を経て、15名に対して研究活動経費の支援を行った。

#### (3) 研究成果発表の支援

プログラム生及び準プログラム生の研究成果発表に係る支援（学会発表旅費 70件、学会参会費 51件、英文校正費 1件）を行った。

#### (4) 研究等旅費支援

プログラムの目的に合致した優れた研究推進を図るため、プログラム生9名に対し国内外の研究プロジェクト等への参加における旅費支援を行った。

### 2. プログラム生の獲得に向けた取り組み

#### (1) 準プログラム生の受入れ

HIGOプログラムのカリキュラムを知り、プログラム生への編入を促すための準プログラム生制度（平成25年度設置）により、平成28年度は8名の学生を受け入れた。

### 3. 広報活動の実施

#### (1) パンフレット等の作成

日本語、英語によるパンフレット及びニュースレター（年3回）を発刊し、各種入試説明会等において、プログラムの広報活動に活用した。さらに、「研究版ニュースレター」を新たに発刊し、プログラム生の研究活動を紹介するなど広報活動に活用した。

#### (2) ホームページによる情報発信

プログラムの活動情報等を学内外に向け、コンテンツの充実を図り、また、わかりやすい情報発信に努める等の広報活動を実施した。

#### (3) その他

JR九州情報誌（プリーズ）へプログラムの広告掲載、Facebookによる情報発信を行う等、多様な広報活動を実施した。

### 4. その他

(1) 平成28年4月に学生が医薬品・機能性食品の研究開発、試薬の販売・受託を行う「株式会社サイディン」を立ち上げた。（起業）

(2) 平成28年7月に熊本地震がもたらした生活への影響について、熊本大学に留学する外国人学生の視点で議論するワークショップ（熊本大学政策創造研究教育センター主催）に学生及び教員15名が参加した。現在も留学生の熊本地震の体験を母国語で広く発信することを目指した活動を進めている

(3) 「第4回全国博士課程教育リーディングプログラム学生会議（平成28年7月8日～10日）」が開催され、本学から7名の学生が参加し、ワークショップでの議論を行った。

(4) 平成28年10月に「東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」と連携した市民公開講座を開催するとともに、両プログラムにおける学生間の交流を図った。

(5) 平成28年10月に再生医療、診断、医療機器、ヘルスケアなど多岐の分野について30か国から約800社が出展する「BioJapan2016」に学生2名と教員1名が参加し、研究成果の発表（口頭発表及びポスター発表）を行った。

(6) 「博士課程教育リーディングフォーラム2016（平成28年11月11日～12日）」が開催され、本学から8名の学生及び4名の教職員が参加した。なお、参加者のうち、学生5名が産業界と修了予定学生との意見交換会に参加し、自身のプロフィールや将来像についてポスターによるPRを行った。